第4号

日本カンボジア文化産業振興会

法人名を日本カンボジア文化産業振興会に変更

２０２０年　第４回通常総会を６月１３日に開催をしました。理事長の提案を総会により満場一致で世界遺産プレアヴィヒアモノづくりの会から日本カンボジア文化産業振興会に名称を変更になりました。当法人は設立当時はプレアヴィヒアへの産業振興を政府よりお願いされました。しかし現地からの支援をする流れで、様々なエリアの相談を受けてきました。カンボジア人が日本で就労したい現実を目の当たりにし、現地での日本語を中心とした日本文化塾を設立を検討することになりました。総会はZOOMにて行われました。コロナ禍の中、学生の支援事業の発表も出来ない状態となってしまったのは、非常に困った状況です。当法人は２０２０年より現地スタッフを派遣するように進めることになりました。入出国の厳しい現状ですが、前向きに事業を潤滑に運営するようにしていくように総会、理事会で決議されました。

副理事に新任の辻村京一郎

支援事業

世界遺産12周年記念式典

12周年記念式典はコロナ渦という事もあり、規定日直前まで開催が決まらない中、予定通り行われることになり、理事長の東龍が参加しました。今年度は来賓の参列はありませんでしたが、文化庁の副総裁、ヤラ国会議員、プレアヴィヒア州知事などは出席されました。
当法人は植樹の支援等々をさせて頂きました。

技能研修事業

カンボジア人の自立支援の為の技能研修事業として、5名の実習生の教育を行いました。当法人は及川将平、類家好児、飯島幸子先生が主体となって、カンボジア人の縫製技能を習得、向上を目標に事業を行いました。

日本語学校調査事業

プレアヴィヒア州スラエム村を訪問し、日本語学習プロジェクトについて、プレアヴィヒア・オーソリティーの局長や貧困対策で仕事をしている関係者、テチョウ小学校の学校関係者とミーティングを行いました。民間の方々や政府側の意見を聞いた結果、貧困解消を進めていく上で、日本的な教育という事で、衛生、就労など、雇用に一番必要な「当たり前」が重要であると痛感しました。またプノンペンの日本語学校で学んでいるカンボジア人は、地方の若い人たちが多いという事で、このスラエムで日本文化を学べることを実践すべきだと思いました。

村ではコロナウイルスの拡大防止のため、地元の学校が休校した状況で、いつ開校できるか不透明な中、子供たちの現実と未来をお話ししました。学校が休校の間、子供たちが事件を起こしたり、ストレスを抱えている現状も把握することができました。教育の現場が動かなくては、子供たちの常識や気持ちのコントロールも難しく、今後も日本からの教育支援をお願いしたいと言われました。

政府職員、貧困対策関係者とは、外務省が作成している日本語プログラムを勉強できるネットシステム、みなと（https://minato-jf.jp/）を使って体験学習をしました。

体験学習を受けた人の中には日本に対して興味があり、未来的に就職を夢みている方も居ます。しかし実際に日本語の勉強を取り組んだことはなく、学習ソフトを使ってみて、大変興味を持っていただき、とても充実した時間になりました。日本語に触れた感想としては、アクセントやイメージにない言葉が難しいと言ってましたが、村で継続して勉強できるなら、ぜひ参加したいと言われました。体験学習を実施し、現地の学校関係者や政府と打ち合わせしたことから、早期に日本語学校を新設を行い、プレアヴィヒア州で日本の農業などの産業で働く人材育成を検討していきます。

日本文化塾事業

日本文化塾では、日本語プログラムと生活習慣プログラムを中心に進めました。
授業は週末の土日で行い、土曜日に日本語プログラムを午前3時間、午後3時間、日曜日に生活習慣プログラムを午前2時間、午後2時間という日程で行いました。
日本語プログラムはカンボジア・プノンペンにある機関、CJCC（Cambodia Japan Cooperation Center)のプログラムを利用し、土曜日の午前9時から12時までの3時間でオンライン授業を行い、午後は日本語学校調査事業でも活用した日本語プログラムを使い復習を行うように進めました。
CJCCの教材とネットシステムの教材はリンクしている為、生徒は反復練習が出来、上達が早くできました。
生活習慣プログラムは、講師の本法人正会員の戸田が掃除や衛生、整理整頓といった日常生活で行う当たり前な事を基本に、生徒の興味のある事も聞きながら授業を進めていきました。

ナチュラルプロジェクト事業

本支援事業は、日本文化塾を開いている同村でテラオライテックカンボジアが魚を養殖しており、予定より魚の成長が遅れている問題の調査、解決を進め、販売までサポートを行いました。
このプロジェクトのGMピッチ氏と現地政府職員サポートのセン・ノン氏と密に連絡を取り合い、厳しい環境の中、事業を進めていきました。
販売がスタートできるようになったタイミングでカンボジア国内ではロックダウンが起こるなど、厳しい状況に直面しながらも、全員で協力して販売も進めていきました。

発行元
NPO法人世界遺産プレアヴィヒア・モノづくりの会
住所　石川県金沢市藤江北1丁目418ハイウェステリア103
℡fax 076-256-5074　e-mail jcinvestdevelop@gmail.com
https://www.jacaid.org